



盛岡駅のラグビーワールドカップカウントダウンボード（2019年1月14日）

がんばろう！ 岩手 Cheer up! の Sports of Iwate スポーツ

連載 52
文・写真 ● 平藤 淳

平藤淳
(ひらふじ・じゅん)
1956年岩手町生まれ。筑波大学卒業。県立高校、県教育委員会、県体育協会の勤務を経験。ラグビー、スキーが専門。

4年に一度じゃない

ゴールデン・スポーツイヤーズが、いよいよ始まります。2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京五輪・パラリンピック、そして2021年の関西ワールドマスターズゲームズと、3年連続で大きな国際競技会が日本で開催されます。この3年をゴールデン・スポーツイヤーズと呼び、スポーツの発展

だけではなく、スポーツイベントの準備や開催を契機に地域活性化も進めてゆこうという活動が行われています。ワクワクする3年間が、始まったのです。

まずは、今年9月に開幕するラグビーワールドカップ。「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」というキャッチコピーで準備が進められ、全国12の会場で試合が行われます。岩手県釜石市の釜石鵜住居復興スタジアムも会場になっていますが、これは、東日本大震災津波で被災した学校の跡地に新築されたという背景をもったスタジアムです。そのうえ、新日鐵釜石ラグビー部日本選手権7連覇の栄光の歴史を誇る街が、ラグビーの力で震災津波からの復興を進めるといふ意気込みも発信されており、何としても釜石での試合を成功させ復興の後押ししなければならぬと世界中の人たちから応援

援されています。このように、ラグビーの試合や国際交流を楽しむだけではなく、大災害からの復興にもつながってゆくこのイベントに今から興奮しています。

そして、2020年の東京五輪・パラリンピック。岩手県には会場はないのですが、新幹線一本で世界レベルのスポーツとつながることができ、岩手県の選手を応援することもできそうです。会場に足を運ばず、コートやグラウンドだけではなく、街のすべてが五輪になっているのだからと期待しているのです。

しかし、東京とはいえ会場にまでは行けないので、という方もいらっしゃるでしょう。今、岩手県でも、五輪やパラリンピックに参加する国や地域のひととの交流はもちろん、異なる文化、特産物の交流などを行う「ホストタウン」の活動が行われていて、「復興ありがとうホストタウン」「共生社会ホストタウン」を含めると、12の市町村がホストタウンとしての交流をしています。直接、競技会場に行かなくてもこのような活動で五輪に参加することができるのです。

さて、この3年間「する・みる・支える」の、どのスタンスでどう関わってゆけるのでしょうか、夢がふくらみます。

でも、気になることがあるのです。「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」というラグビーワールドカップのキャッチコピーです。岩手県の実行委員会は開催の意義を「岩手・釜石開催は、さまざまなレガシーを次世代の子どもたちへ継承し、地域の一層の発展へと繋げていく大きな役割を担っています」と示しています。キャッチコピーの意味は十分に理解しているのですが、レガシーを次世代につなぐ目的なのに「一生に一度」の表現が気になります。

写真のように元気がいっぱいの子どもにとっても、ゴールデン・スポーツイヤーズの3年だけが「一生に一度」だったら大変です。その後にもスポーツが素敵な日本を作り続けることを願って、私だけのキャッチコピーを決めました。4年に一度じゃない。一生に一度でもない。その先、毎日々だ。